

# 学校だより

宗頭幼稚園

④

## 生き生きとした子どもたち

運動会を終って、年長の女の子の間で、タイヤ飛びが見られるようになりました。

今まで飛び越していたタイヤの倍の高さの大きなタイヤの前で、一人の女の子の動きが止まりました。次の瞬間、女の子はみごとに飛び越していました。

それは、飛び越したい、飛び越してみようとする意気込みが、側で見ている私たちに伝わってくるほど、気迫に満ちた顔つき、体の動きでした。着地した瞬間、スローモーションの映像を見ているごとく、ゆっくり、ゆっくり、表情が変わって行きました。次にその子は、出来たことを確かめるがごとく、もう一度挑戦しました。そして、飛び越したのです。前より軽やかに、「先生、飛べた、飛べたよ」と、その子が言う前に、一緒にいた友達が、「わあ、すご

い、きれい」と言って手をたたいていました。

この遊びをじっと見ていた三歳の男の子は、タイヤの上によじ登っては、飛び降りる遊びを始めました。

子どもたちの遊び(生活)を見てみると、「生き物と出合って」「テレビを見て」「友達遊びを見て」「おもしろそうなもの」と出合っ

てみようとしたり、やっには、大人が根負けするほどの時間と、集中力をもって取り

組みます。その時の子どもたちの表情からは、今を精一杯生きているという充実感を感じ取ることが出来ます。

子どもたち一人ひとりが、生き生きと活動し、そのことによって自己を実現し、友達存在に気づき、互いに認めあう生活を積み重ねることで心やさしく、たくましく生き抜く力を身につけてくれると思えます。

生き生きと遊び込める環境づくりに配慮しながら、楽しい幼稚園にしたいと頑張っています。



## 町民文芸

### 俳句

清風句会

(十月) (五十音順)



うす寒やそぞろ歩き秋の蝶

うそ寒や話合って腰おろし

うそ寒の背中に妻が着せくれぬ

手を洗う波紋をくずすうす紅葉

そぞろ寒コーヒーをいつもより熱し

そぞろ寒そっと咲く花そっと散る

時雨るるや慚愧の涙とめどなく

稲刈りて静かになりぬネオン

川 山々の薄紅葉うき目立つなり

なわとびの大波くぐる夕蜻蛉

宮垣つた女

松田 妙子

松永 保代

宮垣つた女

松田 妙子

松永 保代

宮垣つた女

松田 妙子

松永 保代

宮垣つた女

松田 妙子

松永 保代

宮垣つた女

### 短歌

三隅短歌会

(順不同)

青だたみ数きつめしごと田面にも日照不足の稲穂かるやか

深みゆく秋の夕べのテレビよりモスクワ市街の砲声響く

立間 雅子

中秋の月を仰ぎて真夜中にひとり聞き入るあまた虫の音

田中 朝子

いのししの掘りたる穴におちぬよう残りし粟を今朝も取りゆく

白井 麻子

中陰の仏間にこもる香煙に日がな散りゆく花の寂けさ

石村 栄助

やんわりとアルミの缶は潰れゆき踏まる、ま、に息を漏らせる

岡 松子

この宵はこほろぎ近し厨なる菰の菜などに居てか鳴くらし

平川 育子

楽を打つ鐘の音賑わう神苑に胴取りの汗秋日に光る

古屋 博子



選者追吟

そぞろ寒手をこすりつつ立ち話 富田佳津美